

World Benchmarking Alliance Financial System Transformation Scoping Report

エグゼクティブサマリー

- 提案されている金融システム変革ベンチマークは、国際的に定義された世界的な目標や社会規範に対する進捗に沿って、持続可能な開発への金融システムの貢献を加速させることを目的としています。すなわち、国連の持続可能な開発目標（SDGs）、パリ協定、国連のビジネスと人権に関する指導原則（UNGP、グローバル目標）です。
- 世界の利用可能な資源と手段によって生活しつつ、誰一人取り残さないようにするためには、天然資源の利用制限と社会規範を尊重した経済活動が必要です。これは、金融システムの運営方法を変革することを意味します。今日、金融システムによって駆動され、形成された経済活動は、地球環境や社会的慣習の問題を解決することなく助長しています。私たちは、誰一人取り残されない世界とは程遠い状況にあります。これらの問題は私たち全員に影響を与えていますが、グローバル・サウス（途上国）の弱者を含め、平等に影響を与えているわけではありません。
- このような変革には多くの変化が必要です。金融機関は、直接的・間接的、肯定的・否定的、意図的・意図的でないなど、人々や世界への影響を認識し、その影響を世界的な目標に照らし合わせて定義した上で行動する必要があります。そのためには、金融機関のコミットメント、活動、パフォーマンスに関する開示情報の質と比較可能性を以下のように大幅にシフトさせる必要があります。
 - システムの中で仲介者として活動する金融機関が、環境・社会的パフォーマンスをより良く測定・管理できるようにします。
 - 制度の利用者は、資本の所有者（個人の貯蓄者、年金基金保有者、制度がレバレッジをかけている国民）としても、金融商品やサービスを求める個人、家計、企業、政府としても、情報に基づいたより良い金融選択をすることができます。
 - 政策立案者、規制当局、監督機関は、財政政策やその他のメカニズムを通じて、システム参加者にインセンティブとペナルティを与えることで、私たちに多大なコストをかけている「外部不経済」に、より良く対処することができます。
- これは高い要求水準であり、今日のシステムが到達するには程遠いものです。その正味の影響は、気候変動、生物多様性の損失、不平等の増大等の点でますます明白になっています。金融システムは既存の経済と私たちが必要とする変革の基本的な推進力であるにもかかわらず、現実には「どの程度の資金調達に善に寄与し、どの程度の量がより大きな不平等と持続不可能な結末に寄与しているのか、全く分からない」¹のです。業界全体で責任ある投資慣行への関心が高まっているにもかかわらず、資本の流れの大部分は責任あるもの、あるいは持続可能なものであるとは自認していません。さらに、責任ある投資や持続可能な投資とみなされている資本フローは、進捗状況を評価できる共通の分母（すなわち、世界的な目標で定義されている地球規模のニーズや社会的ニーズ）を欠いており、緊急性が高く深刻であることに変わりはありません。世界に対して破壊的であることが長年

にわたって知られている経済活動に対して、膨大な量の資本が費やされています。SDGsを満たすために必要な資本のギャップは拡大し続けています。

- 金融機関は、世界的な目標を達成できなかったことがもたらすシステミック・リスクを認識し始めています。目標達成への公的コミットメントは、特に気候変動緩和の分野で加速しています。しかし、行動を測ることは困難であり、その他の世界目標へのコミットメントは稀です。企業の持続可能性に関するディスクロージャー・イニシアチブの普及に不満を抱く人もいますが、多くの金融機関は一律のディスクロージャー基準を維持できていません²。金融機関の進捗状況を具体的に評価するフレームワークは少なく、世界的な目標を分母として用いて進捗状況を測定するものはほとんどありません。このような業界横断的な国際基準に対する主要金融機関の進捗状況を明らかにするための、一般に公開されているグローバルな説明責任メカニズムは存在しません。
- 既存または開発中のいくつかのフレームワークは、資産所有者、資産運用会社、銀行、保険会社が持続可能性へのコミットメントや活動を証明するために使用できるアプローチを標準化しています。しかし、金融システムには、金融機関が世界的な目標に対してどのようなパフォーマンスを発揮しているかを測定する方法がまだ不足しています。
- 本ベンチマークは、世界的な目標に対するパフォーマンスを測定する上でのギャップを埋めるのに役立つフレームワークの開発と導入の促進を目的としています。本報告書では、組織慣行、マーケット・シグナル、資本配分と金融商品・サービスの3つの幅広い影響分野における主要金融機関のシステミックな影響力に焦点を当てています。また、世界的な目標に基づく標準化されたフレームワークに照らして、金融機関の利用と情報開示にインセンティブを与えるグローバル・ベンチマークの可能性を探っていますが、その中にはまだ構築が必要なものもあります。
- このスコーピング・レポートに対する[フィードバック](#)³(日本語可)を募集し、そのための質問を随所に掲載しています。読者の皆様には、こちらのフォームをご利用いただき、2021年を通してベンチマーク手法の開発に役立てるためのフィードバックを提供していただくことができます。我々は、ベンチマークの利用者からのフィードバックを求めています。即ち、
 - ベンチマークの範囲内外の業界団体を含む金融機関
 - 情報開示の枠組み、基準、およびその他の説明責任のイニシアチブを開発する責任を負う組織
 - 政策立案者、規制当局、監督機関
 - 市民社会の代表者（関連するテーマに取り組んでいる学者を含む）。

我々は特に、グローバル・サウス（途上国）の人々の意見に関心を持っています。グローバル・ノース（先進国）の金融機関によって支配されているグローバル金融システムの持続不可能な運用慣行を打ち破るのに、ローカル・アクションが役立つ可能性があります。ここに明記されているような変革された金融システムからは誰もが恩恵を受けることができますが、グローバル・サウスの人々が最も大きな利益を得ることができます。

次のステップ

本報告書は、提案されている金融システム・ベンチマークの開発における第一段階の結論を示すものです。我々は、特に以下の質問に対するフィードバックを歓迎します。

- 基幹金融機関が世界的な目標の達成状況を開示することで、これらの目標が達成される可能性が高まることに同意しますか？
- デジタル金融インクルージョンは、金融システムとデジタル・インクルージョン・システムの交差する点に位置するという我々の見解について、どのようにお考えですか？
- 金融機関が人々や世界に大きな影響を与える重要な鍵を見落としていませんか？
- 現在、人々と世界にインパクトを与える主要な要素を、組織慣行、マーケット・シグナル、資本配分（アクティブ・オーナーシップを含む）と金融商品・サービス、の3つに分類しています。これらの影響力のいずれかに焦点を当てることは、必要とされる変革を加速させるのに役立つでしょうか？ 3つの分野のいずれかに特別なスポットライトを当てる必要がありますか？
- 私たちは特に、インパクトの第一のレバーである組織慣行の中で、インクルージョンと多様性に焦点を当てています。このトピックにこのようなスポットライトを当てることについて、どのようにお考えですか？前述の「システムック・バリア」のセクションで参照したデータの多くは、米国と欧州の調査に関連するものであることを考えると、対象となる400の金融機関に普遍的な関連性があると思われますか？
- 報告書の最終セクションで議論されているように、業界や地域を超えた進展を比較する際に、どのような影響力が最も意味があり、有用であると思われますか？
- インパクトの3番目の要素である資本配分（アクティブ・オーナーシップを含む）と金融商品・サービスについては、金融機関の特定のカテゴリ内での進捗状況を測定しようとする場合、コミットメントや行動の代理指標として、既存または新興のフレームワークに対する開示情報を利用することを提案します。このようにフレームワークを代理指標として使用することは、指標の普遍的採用を促進するのに役立つと思いますか？また上記で概説したように、必要とされる変革に貢献することになると思いますか？
- 公約や行動の指標の代用として使用できる開示フレームワークをフィルタリングするために提案されている5つの基準に、さらに何か基準を追加しますか？
- （既存または新規の）自主的な開示枠組や説明責任イニシアティブを Appendix 1 に追加しますか？

本報告書の調査結果に関する一般的なフィードバックとともに、これらの質問に対する書面による回答を求めます。今後数ヶ月の間に、ベンチマーク手法の草案を作成するための基礎として、これらの情報を取りまとめ、総合的にまとめていく予定です。ご回答やご質問がある場合や、報告書の内容についてさらに詳しくお話ししたい場合は、

info.financial@worldbenchmarkingalliance.org までご連絡ください。

このフィードバックは、2021 年半ばに公表される予定の方法論草案に反映され、2021 年末までに最終的な方法論が公表される予定です（図 1 を参照）。2022 年にはベンチマーキングプロセスを開始し、2023 年までに最初のベンチマークを開始することを目指します。

Figure 1: Benchmark development timeline



この報告書が示すように、カバーすべき領域は多く、特定されたギャップを埋めるためには、複数の利害関係者の努力が必要です。この作業を完了させるために、私たちのアライアンスに参加したり、私たちと協力したりすることに興味をお持ちの方は、ぜひご連絡ください。

なお、誤りや不備はすべてこちらの責任です。もし、お気づきの際は、それらを特定するために、こちらの[フィードバックフォーム](#)³から回答していただくことをお勧めします

¹ OECD (2020) Global Outlook on Financing for Sustainable Development 2021.

² Patrick Temple-West (6 October 2019) Companies struggle to digest 'alphabet soup' of ESG arbiters. www.ft.com/content/b9bdd50c-f669-3f9c-a5f4-c2cf531a35b5 [accessed 5 January 2021].

³ https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=MGc2aegggeUun1f_kC8N1m2fN348I0tRBtdi-zWI2bflURTROWkg3SutKM0dIMENUWUVJS0YwRFNGUC4u